

計 算 書 類

(2021年4月 1日から)
(2022年3月31日まで)

1. 貸 借 対 照 表
2. 損 益 計 算 書
3. 株 主 資 本 等 変 動 計 算 書
4. 個 別 注 記 表

AGミライバライ株式会社

貸 借 対 照 表

(2 0 2 2 年 3 月 3 1 日 現 在)

(単 位 : 千 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	2,912,377	流 動 負 債	523,205
現金及び預金	521,224	買掛金	475,635
営業未収入金	1,984,207	未払金	38,504
前払費用	10,574	未払法人税等	594
未収入金	890,022	未払費用	301
貸倒引当金	△493,652	預り金	8,170
固 定 資 産	114,118	固 定 負 債	2,801,000
有形固定資産	807	長期借入金	2,801,000
建物附属設備	807	負 債 合 計	3,324,205
工具器具備品	0	純 資 産 の 部	
無形固定資産	83,925	株 主 資 本	△297,710
ソフトウェア	83,925	資本金	100,000
投資その他の資産	29,385	資本剰余金	50,000
長期前払費用	29,114	資本準備金	50,000
敷金	270	利益剰余金	△447,710
資 産 合 計	3,026,495	その他利益剰余金	△447,710
		繰越利益剰余金	△447,710
		純 資 産 合 計	△297,710
		負 債 ・ 純 資 産 合 計	3,026,495

損 益 計 算 書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		
受 取 手 数 料	628,316	
そ の 他 の 業 務 収 入	777	
遅 延 損 害 金	12,474	
償 却 債 権 取 立 益	5,140	646,709
販売費及び一般管理費		975,025
営 業 損 失		328,316
営 業 外 収 益		
補 填 金 収 入	12,799	
受 取 利 息	1	
そ の 他	40	12,841
営 業 外 費 用		3
経 常 損 失		315,477
税 引 前 当 期 純 損 失		315,477
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	△12,951	△12,951
当 期 純 損 失		302,526

株主資本等変動計算書

(2021年4月1日から
2022年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				純 資 産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	株 主 資 本 合 計	
		資本準備金	その他利益 剰 余 金		
			繰越利益剰余金		
当事業年度期首残高	100,000	50,000	△145,183	4,816	4,816
事業年度中の変動額					
当期純損失(△)			△302,526	△302,526	△302,526
事業年度中の変動額合計	-	-	△302,526	△302,526	△302,526
当事業年度末残高	100,000	50,000	△447,710	△297,710	△297,710

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 固定資産の減価償却の方法

- (1) 有形固定資産 定率法を採用しております。
なお、耐用年数は次のとおりであります。

建物附属設備	15～18年
工具器具備品	4～5年

- (2) 無形固定資産 定額法を採用しております。
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

2. 引当金の計上基準

- 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般営業債権については、貸倒実績率を勘案し必要と認められる額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

3. 重要な収益及び費用の計上基準

(1) 受取手数料

受取手数料は発生基準により計上しております。

(2) 顧客との契約から生じる収益

当社において、顧客との契約から生じる収益である受取手数料等は、以下の5ステップアプローチに基づき、履行義務を充足した時に又は充足するにつれて、充足した履行義務に配分された額で収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する

ステップ2：契約における履行義務を識別する

ステップ3：取引価格を算定する

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する

顧客との契約から生じる収益の履行義務に関する情報は以下のとおりです。

一時点で充足される履行義務

受取手数料につきましては、顧客のショッピング取引時に、決済サービスの提供という履行義務が充足されるため、同時点で受取手数料として収益を認識しております。

なお、上記収益は、顧客との契約に基づき計上しており、約束した対価の金額に変動対価の見積もり及び金融要素は含まれておりません。

4. 控除対象外消費税等の会計処理

資産に係る控除対象外消費税額等のうち、税法に定める繰延消費税額等は長期前払消費税等に計上のうえ5年間で均等償却し、繰延消費税額等以外は発生年度に費用処理しております。

5. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

なお、当社は、翌事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律（2020年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号2021年8月12日）を適用する予定であります。

II. 会計方針の変更に関する注記

「収益認識に関する会計基準」の適用に伴う変更

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を当事業年度の期首から適用しております。なお、財務諸表へ与える影響はありません。

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末の発行済株式の種類及び総数	普通株式	10,000株
---------------------	------	---------

IV. 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報

「I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「3. 収益および費用の計上基準」に記載のとおりであります。